12
2185
C3

大利 12
門 2185
巻 3

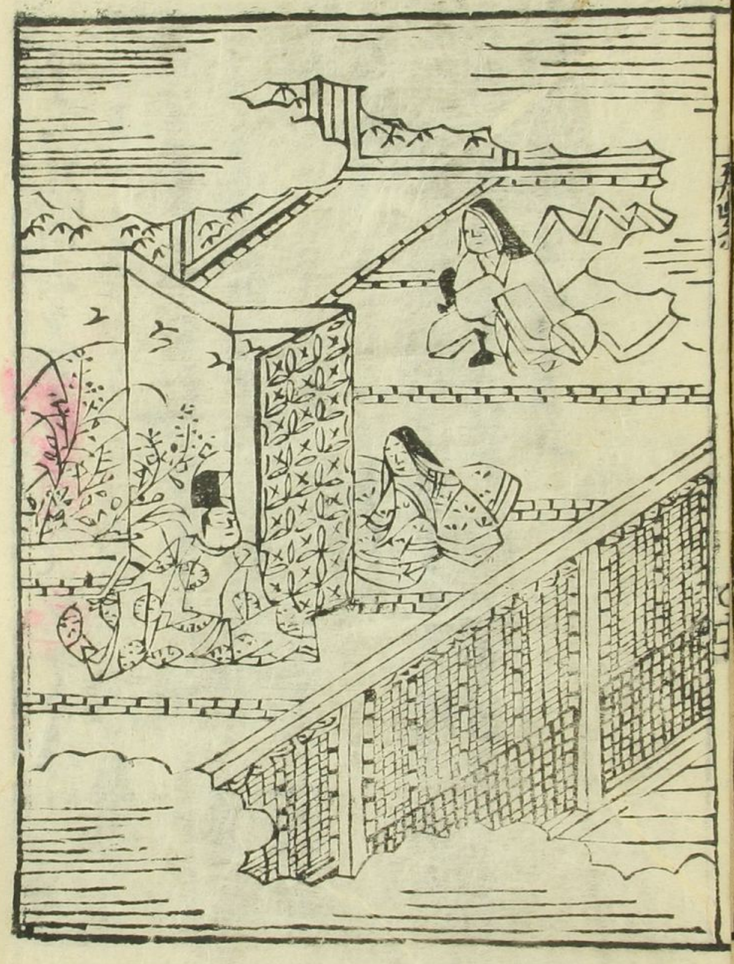
原氏十七

まらはやこにもづらひ給てよ給ひまゝしなれば
ちづるどまいらせ給へどもしるしなくておまたた
びをこりあひなれば おる人さくこゝにはなんなにか
しでらといふ所にはしこれをこまひ人しづるそ
のあひもよにをこるもてんぐまじなひ日づら
ひしをやうてとぐむるづひおまた給きこゝ
りしつるを給ひてうくて給る給ひとくこそんこさせ
給はめるどきこゝもまぬ原しまゝりしるに お
聖 ぐまりてむろのさにも向うですとせられば
原行 ぐはをん志のびてものをんとのあてぱとりる
むりましきやみ人ぞうりまてまぐこあうりに

すぎまあることくみかん申すぎみもうほさびも
とるゝひ給はねどさすがにおりしてさらはおり
つきよとのゆふ日といとあかれまゐれぐるれば
ぐれのいくうかすぎそるに海ぎれてかのこしを
ぎれすとおさらいでゆふんとかへしあてこれ
ゝ何ぞうほとりにてのうきさまへぞこれ
しおりてまし也ちふ何をへさてまつりてをこ
なりふあまぬなりすぐれそこしあけてぞあそ
まつるめり申れしらにかりぬてぞうそくのうへ
よきやうをくきていとあやましぎにまゝぬるあ
まゞ御さくへとみくす申千ぐりあていとあろうあて

よやせられどつゝはきふつゝかにまゝれはどうゝ
のうけしをにそがれるすむも申しるかれより
も。むよるういま先りしきものかれとおられよ見
ゆふ。さよげなるあとれふくりぐりさてなりう
もべぞいて入あそぶあるに十ぐりあやあんとを
えて。ぶろきさあやまうぶきるどれなれるさで。
もしまとさるる女ごあまくみとつるどもにゆる
べくとあらず。いうじうあひされをえて。うけしぎ
るるかうちなりうゝもあふざをひろぎくる
やうよのかくにして。かへいとあくすりあして
さそりる尼禰にぐとぞやわらべとをしさら給つるか

とて。おまゑのみあげさるにぞこしおほく
さるゑあれがごるめりとこ給。そぐめのゑを
いぬさがふがしつる。ふせごぬちにこめちつる
ものをとて。いとくちおしとこへり。このゑさ
ゐおとれ。きいのんるしぬかゐわざをしてぎ
いるゐるくてそいとこ給づきなけまゐゐ
さへかまるとぬる。いとおかしうやうくなりつ
ゐりの給ひくするどもとてこれとて。さち
てゆくゑゆるくらにいとながくめやすれひとお
ゐり。せうなごんのめれとぞ人いふめるも。この
ものこしろくなるべし



うちなびかめるときこえまへだいどころのひ
まのあべさんとものぐちもぴさうめしひがみなか
ことるぎやかんとつくまーうちんぽやしきさ
分ひとりをあのりべなすんぐちんぽんでぱとと
まこみうひちんぐれぢんぐちんぽんでゆうさそ
くもかりうくれぢんぐちんぽんでゆうさそ
めんざりけっとのぽんぽんぐちんぽんでゆうさそ
をこまのうのぽんぽんぐちんぽんでゆうさそ
ひのへうこまとなるんのぽどをらんぜよ
とさこまのぐぴんぽんぐちんぽんでゆうさそ
あまふとなぐぴんぽんぐちんぽんでゆうさそ

づありめまこぐぴんぽんぐちんぽんでゆうさそ
のりうちんぐそぐぴんぽんぐちんぽんでゆうさそ
まれぱりのをさんまのぐぴんぽんぐちんぽんでゆうさそ
のこぴうよつさそぐぴんぽんぐちんぽんでゆうさそ
そぐのぐぴんぽんぐちんぽんでゆうさそ
ぐぴんぽんぐちんぽんでゆうさそ
ぐぴんぽんぐちんぽんでゆうさそ

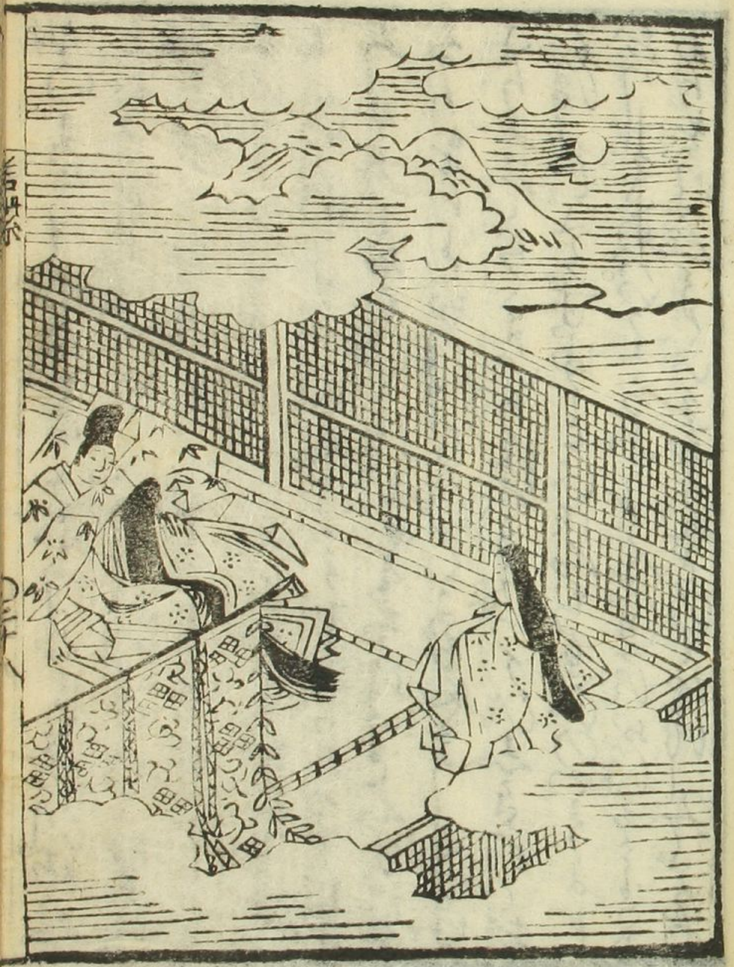
聖

あさのうてなにみがきたまひらひよろげをそのへ
こまへり。女（葵）たまいのもいかれてどこにもいで
給はぬを。おとゞ（左本店）をちよさこんをてからうまて
けうりをへりぐこゝ思ふにくるものひめぎこ
のやうに志すへられてうちみじつき給ことを
うくゝ給りしうてものしまへば（源行）ぶふともうち
かすめやまうちれ抱ぐらをもきこんよいふ
ひありておりしうちいゝへくまりぐこそあへ
きるゝめ世ゆはんとそけずうとくそびりし
きものにおもほしてどしぬさるにそへて。れひ
のべそてもきる給いとくるしく。ぬりずよそれ

ぐそこのひなるれをしき給みだやぐへぐこうこ
ばらひ給ひとも。いりぐとぐにとりせまりぬこそめ
づしうらぬことなれど。なる給うらめしうときこ
え給ふからうしてさ（葵行）ぬはつきものよやあら
むとおりめにこ給こせまへるまみいとそびし
ぎにけこううしげなるれうちちまま
（源行）きくはあさ御しのれことやとはぬはなどいふき
ちことにこそ給るれぬうくものなるすうる。
こすとりにりしるれれりてるしをりしおぼし
あをる。おるしもやとさ御うぎまよんこきこ
ゆる給いとぐおりはしうとむなありりしよしや

いのちごにとてよ法のおましに入まぬ。葵みかと
もいり給ひずきこゝろわがらひまてうちなげき
てかしまへるもおまへ（地添心）ふつきちまさうまやあらん。孫
ふさげまりてなしてぞうせとおぼしみぐるく
とおほうり（源ん）のわらくされおひいでんほどのかを
ゆりきぬ。ふげるれほどくしへりしもことりぞけ。
いひうりぐらしことふもあつかれいりふかまへてこで
んやすくむかへりておけくれのなぐさめにもん。
ひやうぬきやうれやハいとあてにおまめいまへれど
ふほひやうにちどもあらぬをいりでかれ一ぞくおぼ
えまつらんひとつきさいだらなまばかやうどおも

ほとぞゆりいとむつましさにいりでうとふうか
もほとぞ。又の日にふゝなれまへりぞうげもおのめ
うしまふべしおまうへまはかで（又ノ）たゝれさりし法を
しきのほくましさにぞひまゆるさ面をもえあ
らりたて偽らずるまふしとらんがりき
こゆるふてもなしるべさゝぬんきしのほどをけ
らんにしらばいりにうけうちどありなりにちいき
くひきむすびて
（源）おもかぎハ勿ばもたるれす山揺んのかさりさ
めてこしどよのまれ風をしうしろめくるんとを
（地）けてちどハさろかのふてぞさぐたれくをしつゝ



のをはまざれぬて。どこにはしきなうおりますを
はやうふぞおきしきんしぬ。みなへもさはこゑひけ
ま。いとぞおかれまうばりなうおばされて。はゝはひ
などはひさるにも（苦）おそろしう。もの絵おりは
きことひまなし。中（ほ）ねの君を。おとろくしうぎ海
ことなるゆめ絵を給て。おかするりはをめしてとり世給
へいどこびなうおりしもかをぬすぐれとをおき世
なり。そのなるにあがひめあまてつします世給べさ
ことなん侍といふにまづらしくおほてらいかう
のゆめはおらず。人の法と絵をうなり。さゆめ
おふますで。まさひとにまひぶなとはなてんのうち

まいりたまはことなるんとおばしわるにこの（苦）や
はしことさてあひてかしさうやうとやとおばし
ほる世給ふにいとじくいとじきとのを絵つく
しきこしらぬまへど。やうぬもしふまいとむく
つけうまづらしさ海さりて。さらふそだらへ
さうさなし。ぞろれさひとくぐられ法をりのこ
まはうちるにしとそれてまうり。七月（ふつき苦）まなりと
てぞまいり給けり。めづらしうおもはれて。いとじき
法ひのほどぐらりなし。さこしふらうにあり
あて。うちちやうおりやを給へるぞ。げまふるもの
なくめでたし。まへのあけられなるまのこおりし

ましてはあそびもやうくおりしさしろなれば。ぎんじ
の志もいとまれくめしまれしつ。はしとぬえるど
さぬぐよはかまつらせ給ふ。いえじうつみまへど。
志のひがたはしさ乃りり出るおもしく。ミやもさ
すがなることぞもをおほくおかしつ家なり。
尾去 のやさでられ人ハよろしうなりていで給ふを
つゝ。京の御すまうらづゝて。ゆ給ぐれはせうそこ
たまどあり。おなじさぬまのミあるもことりまなる。
これはぐろハおもしふ御さるものゆひまこと
るなくてすぐゆくおきのすゑつゝ。いとものふ
ぼらくてなけきまふ。月のおりしきまゑのびさ

御あはにがらうまして世ひさらまへる紙。ぶんれめい
てうらそくくおかするゑハ。六でう京ごくわさり
ゆて。内ゆるとなれば。そうしほどと紙さんらする
よ。おまさるいへのこぐらいとものかりて。ごらう
みさるあり。きいの御ことにまちる。其ぬられなん。
なあぜら。ぬべなぐんのいへは侍り。一日もれぬより
よこふらひて侍しかば。かのあまうへいさうよりの給
よられば。なにともおぼしぞとやて侍しときこ
ゆきぞ。おもれの。とやとふ。ぬべかりける紙。などか
さちんともものをざりしゆりてせうそこをとれ
ゑへ。ハ人いれてあかいをさす。わざとかくさらより

やとぷとさくらあさなくうれあしまへるもいへじ
うおかしがるれば やがてゆてかんみとんぐきこゑ。
せうあぐんできこしさうとぞ（多行）せまへるはんみ就も
まぐいかさげあるさ面ゆて。ぬぐこゑ面りわろ
ほどゆてぷうとうせまへるうしと面りいぬの世あろ
でもきこしさせんとあり。いと（源氏）おれれとおぼえ
おき（地）のタもぷまして人のいと面なくのあり
みるる人の花あらよん就かけてぷおかがらある
ゆるもはそぐ。まほしきんを面さり給なる
ぺーぷさうんそうる就とあり也ゆみべおぼしいで
られてぷしくもまくさハきをとりやをんとぎれ

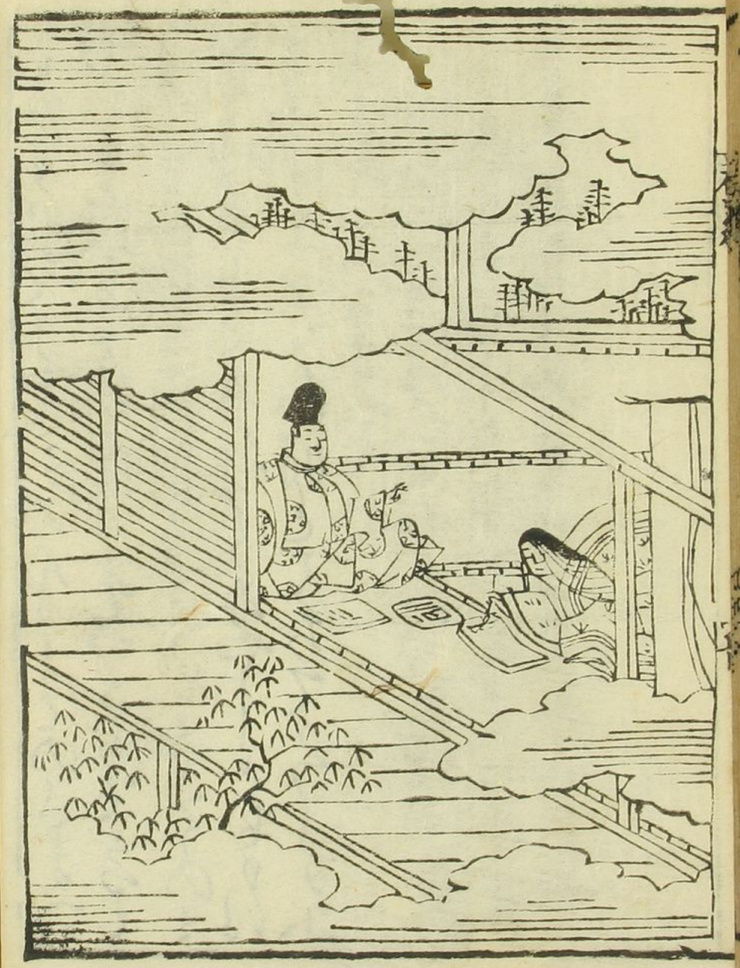
だにあやうし
（源）てふはまそいけしがをもこんむしろされの孫
よりよひけるのぐ乃わるくき

あふのあをれほどあをあらずめのとは此見なが
どしてさふらひあん。悪ハわるれんごるどあ是
だ。おろさまにあろびて。いとよう是のし給あんな
どのあふぢうよびすせてそまろりあふるれが
乃此うろりがれいとじうえんは志こうあへれだ。
おりしの此ふほひや。此ぞハいとるへてとそろぐ
聞ぎにおぼいたり。としどつもあげ志く。此ぞす
ぎあへる人をそひあへるより。叶ぐりしふまさ
まそ。みるしこまへるどものをしとおやし
ううやこと給て。人もこ給をくめりしとかゝ給
おりふしを拘し給ひんもんづーうるどの給

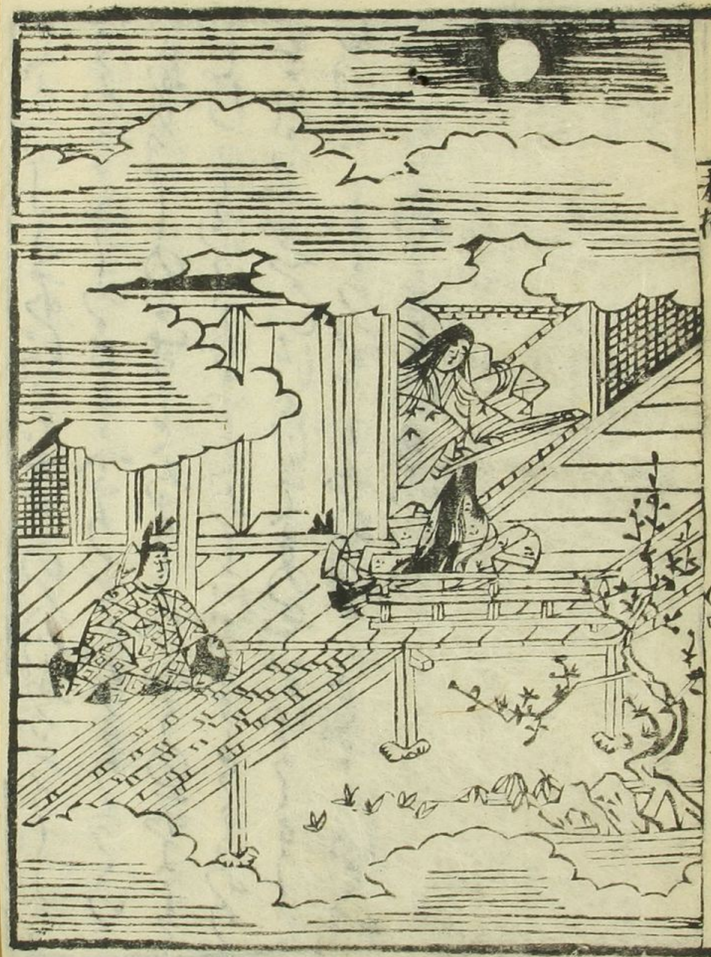
へばるるよりは。ふぼそくとも。志びしかくておほし
ましるん。そうしものふ。ふりほしおりかんよわ
さらせ給ひんよそよくはるべられとさこ西よる
ひるよひさこのふにぢられさものも。さこし
めさずとそぎにいといこうおもやをあへれど。
いとあてにうれしくあつくみ給。共ア行るまうさしを
おぼす。いまはよふふるれんの此とかひあり。
をのきあれだるどうこひさこまてゐるれ
がふらせあふ。笑ぼいとんぼそしとおひてかゝあへ
ばいやもうちる紀あて。引とうこひかいり給
そなふあすわこしそまろんるど。ぬこうし

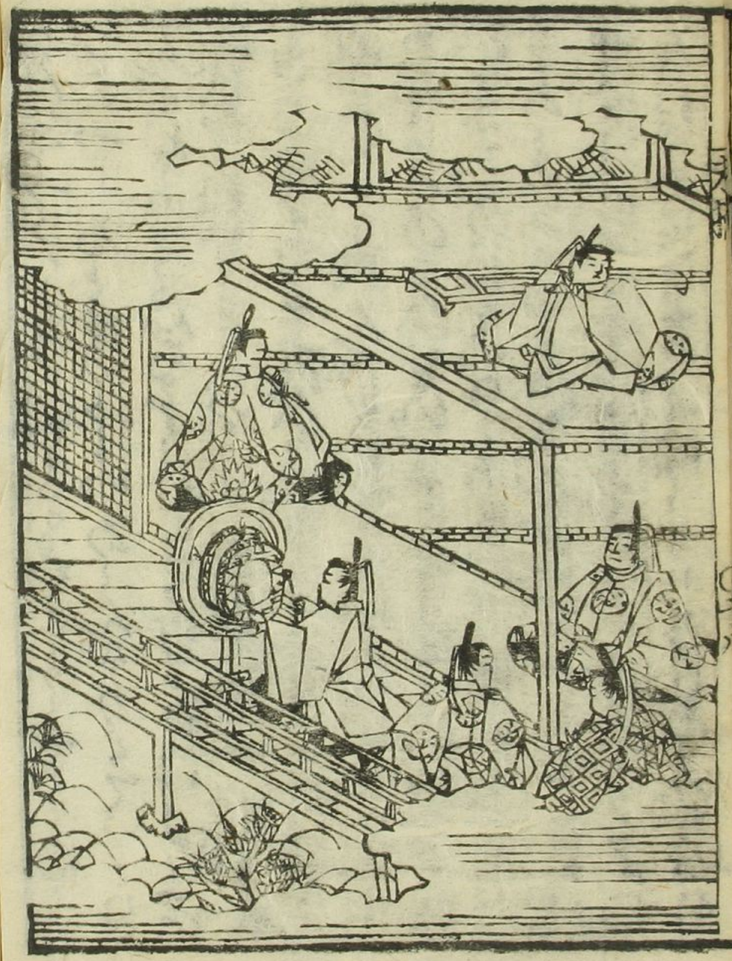
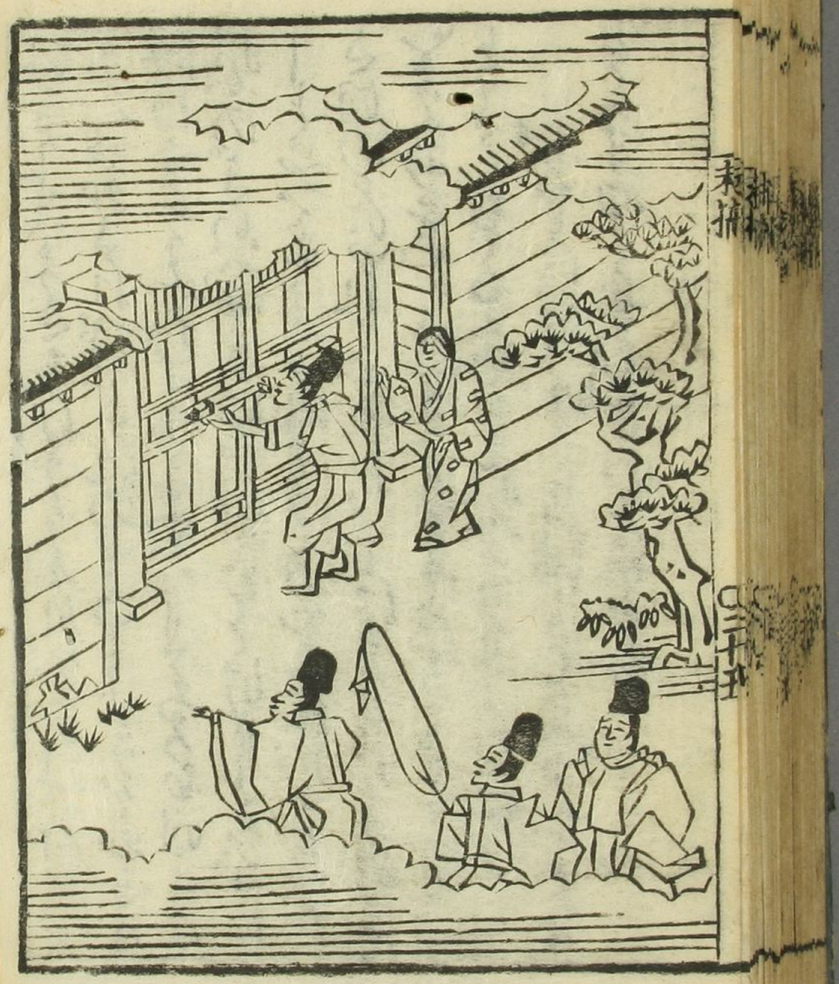
くわらゐへかるれがまして　さこゝかたうるべきれば
人ひとりまいられようしとのこまへばんあいて
しくて　詞ふいとびんるくなん侍べさ　丸下　ゑやの己
さらせ給りんおはいうさ海ようさこゝやらんとの
ばらほどへてさるべきおかしまさばともかうも
侍りるんといと思ひやりる紀ほどれとに侍れ
ばさかゝぬ人ごゝろしうゐるべしとさこゆまへよ
源詞　しのちまも人なまいりるんかしとそ　ゐる海よせ
させ　ゐへばおさまりしういうさ海ようと思ひあへり
己笑　ゑもあやしくおぼしてるいまふぜうなごん
ほどどもひ　ささげてみばらもよろ志紀さぬき

えてのりぬ二てゞれ流ちをれがまゝあうなるぬ
ほどまおりておしのさいはゐる海よせており給
ふ己笑　ゑをばいとうらうにかさいぶさそおろし
ゐふぜうなごんる紀いとゆめれうらしたるとゞふ
し侍るべきことふうとそやすらへだ源詞はこゝろ
なり流笑　力づらなるこしそまつりつれだ　ぐり
なんとあらばとくりをんかしとの給ふ　己笑　ひて
おりぬ　ゆそうにおさ海しうしひもしばうるらず。
ゑやれおぼしの給ひむとゞふるりをそゐべき
ありさ海ふりゞそてもかくてもしあのりしさんごは
とられゐへるがいまじさと思ふにぶきぶれやぶまらぬ



原ハ
こおまぎみまぞめくらけり。いま絶たりしさてゐん
なりたぐ。ぴとよりいさまひてんとみたまふ。
ひゐゐくどぴやどもつらりつゞけて。り後さ
をにあそびつゝ。あまれきものゝひのまぎらい
しなり。雲重久々のとまるまゝ人ぐ。兵部やわらり給て
ゝつゝきこゝ給けるに。さてやらんくまく
王ぞまびあくりけり。志げし人まゝせじと。君
ものゐひ。せうなぐんもゝふことなれば。まちよ
くちぐさめやりつゝ。ぐゆゑもゝらず。せうなぐ
んがゐてかしきこゝろものゝきこゝとすれば。
音心
やもいふひなりあぼして。こおまぎもうしに





さんどきまにこのうそちるてぱさしうくまと」とそも
ぬぬりかざ海なろぬぬぱぐろーとみのふるにどとも
ひそれ給りぱ人ぐくろこぐくろんちまりへ
どぱきのろまもそろうんとやろうさそてのよ
ぱつそうもろひそぱぱぱ